

令和元（2019）年度

公立大学法人長野県立大学の業務実績に関する  
評価結果報告書

令和2（2020）年9月

公立大学法人長野県立大学評価委員会

## 令和元（2019）年度の業務実績評価について

公立大学法人長野県立大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2の規定に基づき、公立大学法人長野県立大学（以下「長野県立大学」という。）の令和元（2019）年度業務実績について、中期目標・中期計画に定められた項目の進捗状況または達成状況について評価を行った。

### I 評価の基本方針・評価方法

#### 1 評価の基本的な考え方

- (1) 評価は、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的にを行い、法人の中期計画の進捗状況を評定するものとする。
- (2) 評価は、教育研究の特性、自主性・自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (3) 評価の一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、地域社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 中期目標の達成を確保する上で、支障となると考えられる業務運営上の課題を明らかにし、業務の改善・充実に資する。
- (5) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや、次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。

#### 2 評価方法

評価に当たっては、「公立大学法人長野県立大学の業務実績評価に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）及び「公立大学法人長野県立大学の各事業年度の業務実績に関する評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて実施した。

#### 3 評価の手順（実施要領から抜粋）

評価は以下のとおり実施した。最終的な評定は、評価委員の合議により、意見をまとめ、評価を行った。

##### (1) 項目別評価

###### ア 小項目別評価

- ・評価委員会は、公立大学法人長野県立大学から提出された「令和元（2019）年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」等について、法人関係者からのヒアリング等により検証を行った。
- ・法人の自己点検評価の結果を踏まえて、進捗状況または達成状況を実施要領別表1に定める年度計画の小項目ごとに、実施要領別表2に定める評価基準により、「s、a、b、c、d」の5段階で評価を行った。
- ・なお、法人による自己点検評価の結果と評価委員会による評価の結果が異なる場合には、その理由を示すとともに、必要に応じて、大学の教育・研究等の質的向上、大学経営の改善の促進につながるよう、特筆すべき点や進捗が遅れている点等についてもコメントを付すものとした。

###### イ 大項目別評価

評価委員会は、小項目別評価結果を踏まえ、実施要領別表1に定める大項目ごとに、実施要領別表2に定める評価基準により、中期計画進捗状況または達成状況について、「S、A、B、C、D」の5段階で評価を行った。

## **(2) 全体評価**

評価委員会は、全体評価に当たって、大項目別評価の結果を踏まえ、実施要領別表2に定める評価基準により、当該事業年度における法人の中期目標及び中期計画の進捗状況または達成状況の全体について総合的に評価を行った。その際、長野県立大学の活動全体について記述式で評価を行った。

実施要領別表 1 : 年度評価における評価項目

評価区分	評価の対象、内容等
小項目別評価	年度計画の第2から第6の最小項目として記載されている各事項の進捗状況または達成状況 ※年度計画の第7から第12に係る実績は、全体評価の参考情報として用いる。
大項目別評価	事業単位評価及び指標単位評価を踏まえた中期計画における5つの大項目（8区分）ごとの進捗状況または達成状況
	1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 【教育に関する事項】（年度計画第2の1） (1)人材育成の方向
	2 (2)入学者の受入れ
	3 (3)教育の質の向上
	4 (4)学生への支援
	5 【研究に関する事項】（年度計画第2の2）
	6 【地域貢献に関する事項】（年度計画第2の3）
	7 【国際交流に関する事項】（年度計画第2の4）
	8 業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第3）
	9 財務内容に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第4）
	10 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第5）
11 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第6）	
全体評価	項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況または達成状況

実施要領別表 2 : 年度評価における評価基準

評価区分	評定	評価の基準	評価の目安
小項目別評価	s	中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	特に優れた実績を上げている（評価委員会が特に認める場合）
	a	中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	年度計画を達成している（100%以上）
	b	中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	概ね年度計画を達成している（80%以上100%未満）
	c	中期計画の進捗はやや遅れている	年度計画を十分には達成できていない（80%未満）
大項目別評価	d	中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	業務の大幅な改善が必要
	S	中期計画の進捗は優れて順調	特に優れた進行状況にある（評価委員会が特に認める場合）
	A	中期計画の進捗は順調	計画どおり進んでいる（すべてb以上）
	B	中期計画の進捗は概ね順調	概ね計画通り進んでいる（bからaの割合が80%以上100%未満）
全体評価	C	中期計画の進捗はやや遅れている	やや遅れている（bからaの割合が80%未満）
	D	中期計画の進捗は遅れている	業務の大幅な改善が必要（評価委員会が特に認める場合）
		中期計画の進捗は優れて順調	中期計画全体の進捗状況について、大項目別評価から総合的に勘案し、評価
		中期計画の進捗は順調	
	中期計画の進捗は概ね順調		
	中期計画の進捗はやや遅れている		
		中期計画の進捗は遅れている	

※「評価の目安」は、評価に当たり判断の目安を示したものであり、実績・成果の水準に加え、計画の難易度、外的要因、取組の経緯・過程等、総合的に勘案して評価する。

## Ⅱ 全体評価

### 1 評価結果

#### 中期計画の進捗は順調

##### ○評価結果の概要

長野県立大学は、「長野県の知の礎となり、未来を切り拓くリーダーを輩出し、世界の持続的発展を可能にする成果を発信することで、人類のより良い未来を創造し、発展させる大学を目指す」の理念のもと、「リーダー輩出」「地域イノベーション」「グローバル発信」という3つの使命を掲げ、平成30年4月に開学した。

県から示された中期目標を確実に達成するため、平成30(2018)年度から令和5(2023)年度を計画期間とする中期計画及び年度計画を策定し、1年次全寮制、2年次全員参加海外プログラムといった先進的な教育プログラムや、ソーシャル・イノベーション創出センターを通じた地域イノベーションへの関わりなどの取組を行っている。

開学2年目となる令和元(2019)年度は「攻める大学。変えよう、世界を。」という長野県立大学が掲げたテーマの下、「攻める人材」の育成に積極的に取り組んだ。

具体的には、2年次対象の海外プログラムで成果を挙げるための事前・事後学習の実施、キャリアセンターの機能充実、1、2年次対象のインターンシッププログラムの実施、カウンセラーの設置など、学生に対する様々な支援を行うとともに、昨年度同様にソーシャル・イノベーション創出センターを窓口とした産学官

連携や地域貢献活動に積極的に取り組んだ。

また、昨年10月には、長野市など県内に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風(台風第19号)により、学生の被災や大学運営に影響が生じる中、自主活動による被災地支援や募金活動等を実施した学生の行動力にも敬意を表したい。

このように、開学2年目においても特長的な大学独自の取組が行われ、中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価できる。

英語教育については、2年次終了時までには全学生がTOEIC600点以上、平均点700点以上を目指す高い目標を掲げ、精力的に取り組んでいる。入学時から2年でTOEICの平均点が140点向上したことや、600点以上の学生が増加するなど、大学入学後の英語集中プログラムの実施により、学生の英語力の全体的な底上げはなされているものの、中期計画の目標値の達成に向けて更なる取組が必要である。

また、GPA(成績評価値)を用いた成績評価を積極的に授業内容・方法の改善につなげられていないこと、科学研究費の毎年度申請率80%以上(継続者を除く)を目指すという目標値が達成されていないことなどの課題も見受けられる。

年度計画を達成できなかった項目については、大学の更なる発展の期待を込めて、開学まもない今だからこそ、中期計画期間の早い時期に要因を検証の上、抜本的な対策を検討するなど早急な改善が望まれる。

今回の評価結果が今後の法人・大学運営に活かされ、理事長・学長以下教職員が課題に対して共通認識をもって、中期目標・中期計画の達成に向けて、引き続き取り組まれることを期待する。

### Ⅲ 項目別評価

#### (i) 大項目別評価結果 (一覽)

評価委員会における小項目評価に基づく大項目評価の状況は以下のとおりである。本年度は小項目数が101項目となり、教育に関する内容が49項目と全体の48.5%を占めたため、4つの分野に分けることとし、大項目として11項目で評価を行うこととした。

大項目評価*			小項目評価						
			s	a	b	c	d	合計	
1	教 育	(1) 人材育成の方向	B	0	18	0	1	0	19
2		(2) 入学者の受入れ	A	0	6	0	0	0	6
3		(3) 教育の質の向上	A	0	5	2	0	0	7
4		(4) 学生への支援	A	1	16	0	0	0	17
5	研究		B	0	7	0	1	0	8
6	地域貢献		S	3	5	0	0	0	8
7	国際交流		A	1	4	0	0	0	5
8	業務運営		A	0	8	1	0	0	9
9	財務		A	0	3	0	0	0	3
10	自己点検・評価		A	0	3	0	0	0	3
11	その他業務運営		A	0	16	0	0	0	16
項目数合計			11	5	91	3	2	0	101
割合 (%)				5.0	90.0	3.0	2.0	0	100

【大項目評価の目安】(実施要領：別表2より)

- S:特に優れた進行状況にある(評価委員会が特に認める場合)
- A:計画どおり進んでいる(すべてb以上)
- B:概ね計画どおり進んでいる(bからaの割合が80%以上100%未満)
- C:やや遅れている(bからaの割合が80%未満)
- D:業務の大幅な改善が必要(評価委員会が特に認める場合)

101の小項目中、s(特筆すべき進行状況にある)が5項目、a(順調に進んでいる)が91項目、b(概ね順調に進んでいる)が3項目、c(やや遅れている)が2項目となった。

#### (ii) 大項目別評価

1	教育に関する事項 (1)人材育成の方向
<b>B</b>	中期計画の進捗は概ね順調

19個の小項目中、18項目がa(順調に進んでいる)、1項目がc(やや遅れている)と認められ、大項目評価はB(中期計画の進捗は概ね順調)となった。

1の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	18	0	1	0	19
	割合(%)	0	94.7	0	5.3	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	18	0	1	0	19
	割合(%)	0	94.7	0	5.3	0	100

#### ▽評価できる点

- ・新入生を対象とする学長による個人面談は、大変評価できる取組であるので、今後も続けていただきたい。リーダーである学長自ら面談することは学生にとって大きなインセンティブになる。
- ・「発信力ゼミ」合同発表会に、近隣の高校生が参加したことにより、学生自身が自己の発信能力を具体的に知ることができる機会となり、評価できる。

- ・海外プログラムの成果を高めるため、事前学習及び事後学習が充実していることを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・TOEIC の点数について、入学時からの平均点の向上、600 点以上の学生の増加は評価できるものの、2 年次修了までに全学生が 600 点以上という目標達成には至っていないため、抜本的な対策を検討する必要があると思われる。この取組は県立大学の特長でもあるので、目標に向かってしっかり取り組んでいただきたい。
- ・学生の英語力を勘案した効果的なクラス分けを行っているが、できる限り少人数で実施し、教育効果を上げていただきたい。また、学生の習熟度の差に応じた授業は、どのようにしたら努力が結果に結びつくのかを考察し、次年度以降の授業計画に役立てていただきたい。
- ・今後は、学生への海外プログラムに関するアンケート調査等を基に、参加者の満足度や感想などを取組の充実に活かしていただきたい。

<b>2</b>	<b>教育に関する事項 (2) 入学者の受入れ</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

6 個の小項目すべてが a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価は A (中期計画の進捗は順調) となった。

2 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	6	0	0	0	6
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	6	0	0	0	6
	割合 (%)	0	100	0	0	0	100

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・入試広報活動として、県内高校での説明会、模擬授業の実施回数が減少している。県外流出率が高い本県にあっては、高等教育の学びの場を提供する県立大学の果たす役割は大きいことを認識し、志願者の減少につながらないよう、県内高校に対する説明会を増やすなど、広報活動を積極的に取り組んでいただきたい。
- ・単位互換の実現に向けて、対象大学や対象科目については、学生の立場での準備期間等を考えると、早めに周知していくことが望ましいので、中期計画に沿って確実に実施していただきたい。

<b>3</b>	<b>教育に関する事項 (3)教育の質の向上</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

7個の小項目中、5項目がa（順調に進んでいる）、2項目がb（概ね順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

3の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	6	1	0	0	7
	割合（%）	0	85.7	14.3	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	2	0	0	7
	割合（%）	0	71.4	28.6	0	0	100

#### ▽評価できる点

・FD\*研修への教員の参加率を前年度（H30）の62%から100%に上げたことを評価する。

※FD：Faculty Development の略：大学教員の教育能力を高めるための実践的方法、組織的な取組

#### ▼課題となる点や今後の展開に期待する点

・GPA\*制度については、学修成果の可視化やモチベーション向上、成績評価の基準づくりは進められているが、今後は成績評価を積極的に授業内容・方法の改善につなげられるよう、取り組んでいただきたい。

※GPA:Grade Point Average の略:各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値を用いる制度

- ・学生に授業改善アンケートを行い、各教員に結果に対する「教員の所見および改善に向けた今後の方針」にコメントを記入させ、改善につなげるよう促したことは評価できるが、全学的に「アンケート結果をシラバスに反映するなど授業の改善につなげる」という取組ができたかという点では不十分と判断し、大学の自己点検評価より低い評価とした。
- ・学生への授業アンケート調査や学務システムを活用して、大学として、予習・復習時間の把握に努めていただきたい。
- ・発信力ゼミを教員相互の授業参観により、内容、方法の改善に役立てていることは評価するが、他の講義においても同様に、教員相互の授業参観を行い、FD活動の一助としていただきたい。

<b>4</b>	<b>教育に関する事項 (4)学生への支援</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

17個の小項目中、1項目がs（特筆すべき進行状況にある）、16項目がa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

4の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	2	15	0	0	0	17
	割合（%）	11.8	88.2	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	16	0	0	0	17
	割合（%）	5.9	94.1	0	0	0	100

### ▽評価できる点

- ・グローバルマネジメント学部の学生のインターンシップ参加率が43.5%と、他大学と比較して非常に高いことを評価する。
- ・寮生が参加する「象山未来塾」の取組は、学生が主体的に自らの生き方を考える機会であり、成長を促す良い活動であると評価する。
- ・学生寮において、教育現場の理想的な仕組みとして、レジデント・アシスタント※制度が高度に機能しており、評価する。  
※レジデント・アシスタント：寮内コミュニケーションの活性化や地域連携を支援する上級生の寮生リーダー。寮内に住み、生活面での指導のほか学習面でもサポートを行う。
- ・学生の健康、メンタルのチェックのため、カウンセラーによる相談を実施していることを評価する。
- ・「就職キャリアスタートアップ講座」の開催など、学生の進路選択に対するきめ細かな支援を行っている。

### ▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・ソーシャル・イノベーション創出センター（以下「CSI」という）の地域連携活動としては、年度計画を1年前倒しで実施し、且つ十分に成果を挙げていることを評価するが、取組に着目すると、教育の観点からは、学生自らが専門性を活かした取組を企画するなど、地域連携・交流の更なる充実を期待したい。さらに、参加者の満足度を調査するなどして、連携・交流事業がどのような効果を上げたのか評価する必要がある、大学の自己点検評価より低い評価とした。

<b>5</b>	<b>研究に関する事項</b>
<b>B</b>	<b>中期計画の進捗は概ね順調</b>

8個の小項目中、7項目がa（順調に進んでいる）、1項目がc（やや遅れている）と認められ、大項目評価はB（中期計画の進捗は概ね順調）となった。

5の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	7	0	1	0	8
	割合（%）	0	87.5	0	12.5	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	7	0	1	0	8
	割合（%）	0	87.5	0	12.5	0	100

### ▽評価できる点

- ・大学のホームページや国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の研究者データなどで、情報発信に努めたことは評価できる。

### ▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・科学研究費の申請・確保の努力は大学教員にとって大切なことである。さらに、大学としてどのような研究を期待するかということも重要な課題である。科学研究費申請率の増加は大学を上げて取り組む問題であると考えられる。
- ・学長の裁量経費においては、研究戦略（准教授以下の若手教員の研究支援、特別分野の研究支援）を明確にし、県立大学の特長的な内容を選定していく必要があると考える。

<b>6</b>	<b>地域貢献に関する事項</b>
<b>S</b>	<b>中期計画の進捗は優れて順調</b>

8個の小項目中、3項目がs（特筆すべき進行状況にある）、5項目がa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はS（中期計画の進捗は優れて順調）となった。

6の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	3	5	0	0	0	8
	割合（%）	37.5	62.5	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	3	5	0	0	0	8
	割合（%）	37.5	62.5	0	0	0	100

#### ▽評価できる点

- ・開学2年目にもかかわらず地域イノベーションに係る課題解決に積極的に取り組み、成果を上げつつあることは評価できる。
- ・SDGsに関連する行事を積極的に開催し、地域イノベーションに資する活動を展開していることは評価できる。今後は、大学という未来を担う若者を育てる機関として相応しいSDGs活動を更に活発に展開していただきたい。
- ・CSIを窓口とする「教職員派遣と公開講座の実施」による地域貢献として、各学科の各々の分野での活動実績が多数得られている。今まで高等教育機関との関わりがなかった市町村から見ると、県立大学に気軽に相談できる窓口をつくったという点は非常に大きな成果である。

- ・CSIを窓口とする「事業者・創業者支援」による地域連携として、飯山地区での支援と保健医療専門職の支援を評価する。
- ・CSIを窓口とする「学生による地域貢献活動」は象山寮学修プログラムとして定着してきたが、さらにこども学科の地域子育て支援を加えたことを評価する。
- ・地域コーディネーターを通じて、県内すべてのコワーキングスペースと関係づくりを進めたことは評価できる。

<b>7</b>	<b>国際交流に関する事項</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

5個の小項目中、1項目がs（特筆すべき進行状況にある）、4項目がa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価は、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

7の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	4	0	0	0	5
	割合（%）	20.0	80.0	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	4	0	0	0	5
	割合（%）	20.0	80.0	0	0	0	100

#### ▽評価できる点

- ・海外からの学生受入れと海外留学への準備が着々と進められていると評価できる。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・現状はアジアの大学との提携が多いが、長野県の強みなども考慮すると、よりグローバル化した戦略の実施も大切である。今後は、オンラインによる国際交流も考えていくことも重要である。

<b>8</b>	<b>業務運営に関する事項</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

9個の小項目中、8項目がa（順調に進んでいる）、1項目がb（概ね順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

8の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	8	1	0	0	9
	割合（%）	0	88.9	11.1	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	8	1	0	0	9
	割合（%）	0	88.9	11.1	0	0	100

▽評価できる点

- ・SD\*研修の計画を策定の上、職員が参加しやすい時間開催するなど工夫を行っている。
- ※SD：Staff Developmentの略：教職員全体を対象とした、大学運営に必要な能力・資質向上のための研修（FDを除くもの）

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・教員の業績評価については、教員が教育、研究、社会貢献とすべてでバランスよく業績を挙げることは難しい面がある。例えば、教員が当該年度に重点的に行ったことを自己申告し、それを評価者が了解することで教員のモチベーション向上につながることも期待できる。また、学生による授業評価結果を反映させることも考えられる。工夫に富む評価方法を考えて実施していただきたい。
- ・スクールカウンセラーによる対応は大変重要であり、今後学生数の増加に伴い、更なる対応が必要になる。

<b>9</b>	<b>財務内容に関する事項</b>
<b>A</b>	<b>中期計画の進捗は順調</b>

3個の小項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

9の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

10	自己点検・評価及び情報の提供に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

3個の小項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

10の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

#### ▼課題となる点や今後の展開に期待する点

・選ばれる大学になるため、「大学ブランディング戦略」を策定し、大学の知名度やブランディング・イメージの上昇に寄与する広報活動を推進していただきたい。例えば、現在は「世界とつながるグローバルな視点での教育」、「産学官連携、地域との連携」が成果を挙げ、ブランディング・イメージを上昇させている。しかし、ウイズコロナ・ポストコロナでは新たに課題を見つけ出し、それを自ら考え、解決していく力を学生に育成することが求められている。学生が大学の4年間でしか学べない「基礎学問領域の教育の充実」についても戦略を立て、「県立大学では考える力を持つ学生を育てている」とのイメージを作っていたいただきたい。

11	その他業務運営に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

16個の小項目すべてがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

11の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	16	0	0	0	16
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	16	0	0	0	16
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

#### ▽評価できる点

- ・平常時における日々の安全・衛生管理の推進に加えて、台風第19号対応及び新型コロナウイルス対策を的確に実施したことは評価できる。
- ・後町キャンパスの防災訓練（自衛消防訓練）を2回実施したことを評価する。
- ・ハラスメントの相談窓口を明確に示して適切に対応している点を評価する。

#### ▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・ICT環境に対する学生の満足度については、アンケートなどを通じて把握し、教育・学修環境の向上に努めていただきたい。
- ・PC-CALL 教室を利用する学生や教員にアンケートを行うなどにより、メディアプラザの機能充実などを通じて利用者の満足度

を高めたい。

- ・教職員の健康診断の受診は、教職員全体の意識付けや危機管理、メンタルヘルスの基礎データ、ハラスメント発見につながる重要なことであり、100%の受診率を目指していただきたい。
- ・ハラスメントの研修参加率が高いとは言えないので、参加率向上に取り組んでいただきたい。

### **その他 法人運営全般に対する参考意見**

評価結果報告書（【資料編】）のコメントには記載していないものの、法人運営に関し、今後参考となる事項について「参考意見書」としてまとめた。

○評価の経緯

令和2年6月30日	「令和元年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」の公表・提出 (法人)
7月6日	公立大学法人長野県立大学評価委員会 法人ヒアリング ・業務実績報告書についての評価委員からの質問に対する法人からの説明、質疑応答
7月20日	第1回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討
7月30日	第2回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価・大項目・全体評価の検討の検討 ・評価結果の原案の検討
9月2日	第3回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・評価結果報告書の検討
9月18日	評価委員会から知事へ「令和元年度公立大学法人長野県立大学の業務実績に関する評価結果報告」の提出

○公立大学法人長野県立大学評価委員会委員

(五十音順、敬称略)

職	氏名	役職名
委員長	山沢 清人	信州大学 名誉教授
委員	生駒 和夫	公認会計士
委員	伊藤 かおる	(株) コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長
委員	沼尾 波子	東洋大学 国際学部 教授 長野県地方税制研究会 委員
委員	山浦 愛幸	(一社) 長野県経営者協会 会長 (株) 八十二銀行 顧問